

風雅和歌集

卷第四

夏歌

千五百番歌合に

皇太后宮大夫俊成

ますらをやは山わくらんともしけち
ほたるにまがふゆふやみの空

千五百番歌合に

寂蓮法師

いにしへの野守のかがみあとたえて
とぶひはよはのほたるなりけり

百首歌たてまつりし時

前関白左大臣基

底きよきたまえの水にとぶ蛩
もゆるかげさへすすずしかりけり

蛩を

式部卿恒明親王

月つすき庭のまし水おとすみて

みぎはのほたるかげみだるなり

蛩を

順徳院御歌

いけ水はかぜもおとせではちすばの

うへこす玉はほたるなりけり

蛩を

後一条入道前関白左大臣

ほたるとぶかた山かげの夕やみは

秋よりさきにかねてすすしも

宝治百首のうたの中に、水辺蛭 皇太后宮大夫俊成女

秋ちかし雲ゐまでとや行くほたる

さはべの水にかげのみだるる

正治二年、後鳥羽院にたてまつりける百首歌の中に

式子内親王

秋かぜをかりにやつぐる夕ぐれの

雲ちかきまでゆくほたるかな

「国歌大観」より